

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502801		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌川沿(1F)		
所在地	札幌市南区川沿4条3丁目5-37		
自己評価作成日	令和1年11月15日	評価結果市町村受理日	令和1年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502801-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内の清掃や環境整備には特に力を入れており、ご入居者様が心地良く過ごしていただけるように努めている。ご本人、ご家族様の意見を反映出来るように日頃から全員でコミュニケーションには力を入れています。
また、職員個々のスキルアップが出来るように研修や最新の情報の共有を行っている。地域との交流では週1回のふれあいサロンへの参加を継続している他、児童館の子ども達との交流行事や、地域の行事へも参加出来る体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「愛の家グループホーム札幌川沿」は、バス停から近い住宅地に立地している2ユニットの事業所である。周囲にはドラッグストアや大型商業施設、公園などがあり生活の利便性に優れている。当事業所は開設15年が経過する中で、昨年交代した管理者は法人グループホームでの経験を活かしながら本人や家族、また職員とのコミュニケーションを図り、個別支援に向けて取り組んでいる。法人のバックアップの下で研修機会が多く、職員の育成と資質向上や職場の環境づくりを熱心に進めており、職員は会議や業務で常に情報を交換し、利用者が安心できるように支援している。主治医指導の下で看取りも実施している。身体拘束廃止委員会ではチェック表を用いて日々の対応を振り返り、介護計画の見直し時には、全職員が評価を行い、計画に沿って個別ケアを丁寧に行っている。地域住民との交流では、年間を通して利用者が地域の「ふれあいサロン」に毎月出席したり、ふれあいコンサートを鑑賞している。RUN伴(タスキをつなぐイベント)に職員と一緒に参加している。子供とは近くの児童館と行き来し、交流する機会が増えている。また実習生も受け入れており、利用者は外部の人と触れ合う機会が多い。管理者と職員は、工夫を重ねながら地域の人々との交流と家庭的な環境で利用者が快適に過ごせるように温かな姿勢で支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識し作成された運営理念を朝礼にて毎朝唱和し確認、共有する事で実践に繋げている。	理念に地域の人々との交流を図るという文言があり、住民や子供との交流を継続して実践している。職員の採用時に理念の内容を具体的に説明し意識づけにつなげている。事例で困った時は理念に基づいて対応し、会議の際にも確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいサロンへの参加、地域のお店での買い物、行事等を通じて積極的に地域との交流を図っている。	地域の「ふれあいサロン」に、年間を通して数名の利用者が毎月参加し、作品作りなどで交流している。RUN伴(タスキをつなぐイベント)に利用者も参加している。地域のふれあいコンサートを鑑賞したり、年に数回は児童館の子供と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や実習生の受け入れを通じて積極的に地域との交流を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況、現状の報告を行い、いただいたご意見を反映しサービス向上に努めている。	2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、3~4名家族の参加を得て、行事、外部評価、防災、研修などのテーマで報告を中心に行っている。居宅療養管理指導で薬剤師の説明も聞いている。今後も地域代表の参加依頼を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、認定更新、事故報告、保護課の方との情報共有等を通じて協力関係を築くよう努めている。	運営や制度、書類などの確認は法人の地区担当者が行い、情報を得て取り組んでいる。管理者は介護認定更新やおむつなどの申請で家族に連絡調整をしたり、生活保護課担当者とは連絡を密にして情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い身体拘束となる具体的な行為や弊害について理解し身体拘束ゼロの取り組みを行っている。	法人の身体拘束適正化指針に沿って事業所で委員会を開催し、3か月ごとにチェック表を用いて身体拘束禁止行為や言葉遣いなどの振り返りを行っている。年2回の研修や会議で身体拘束の弊害を理解し、職員間で拘束のない方法を話し合い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の実施の他、虐待チェックリスト、虐待防止委員会により虐待に対する理解を深めると共に常に意識をし虐待の防止に努めている。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を定期的に行い情報共有しながら知識を得ている。また必要性がある方には利用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や契約時に十分な説明を行いご理解、ご納得いただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや面会時等の機会に意見や要望を確認している、また、運営推進会議や行事等の際に意見交換の場を設けている。	家族の来訪時に管理者や職員が対応し、状態を説明する中で健康についての意見が多い。意向などは連絡ノートや特記事項に記入し共有している。毎年本社で行う家族アンケートの結果も把握している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個人面談等で意見や提案を聞く機会を設けている。	全体会議後にユニット会議を行い、主に個別ケアや計画の見直しで意見を交換している。全体会議で研修を行い、事業所、ユニットの目標を確認する機会もある。管理者は個別面談の回数を増やす方向で、職員が働きやすい環境整備を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、向上心を持って勤務出来るように環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加に機会を設けたり書籍等を利用した知識の獲得の機会を確保するなど管理者が適時対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例検討会や行事で交流をする機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等の過去の情報に目を通し入居後も安心安全に暮らせるように支援を行うよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様ともコミュニケーションを密に取り情報を共有出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の気持ちを優先しつつ客観的に見てその方に必要とされる支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主体で動く事はせず、ご本人の想いに寄り添った支援が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人様の想いを大切にし支援を行うように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親族の方が定期的に面会に来られたり、昔からの馴染みの友人が遊びに来られたりしている。入居前からの習い事に継続して通われている方もいらっしゃる。	友人がそれぞれの頻度で来訪している。家族の支援で趣味の教室に通う方や、以前住んでいた場所に出かけたり、お墓参り、外食、買い物、美容室などで外出している。馴染みの関係が継続できるように家族と話し合いながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事を通じてご入居者様同士と一緒に楽しめる場所を設けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも来訪出、相談が出来る関係、環境作りに努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご本人との会話を通じて希望や意向の把握に努めています。	話しかけて思いを汲み取ったり、生活歴の話題から趣味や嗜好などを把握することもある。課題分析シートを3か月ごとに更新しているが、ケア面の状態把握としての傾向が見られる。	利用開始時に収集した情報を活かしながら、暮らし方の習慣、趣味、嗜好などの変化も追記し、現在の思いを記録でも共有できるように期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様とのコミュニケーションを密にし情報を得られるようにしている。また、ご本人の馴染みの物を持って来ていただけるように依頼しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントのみならず、日頃からご本人の能力の把握が出来るよう努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する場合にはモニタリングを活用したり、また、日頃からご家族様とのコミュニケーションを増やしご本人様に合った計画を作るように努めています。	3か月ごとに全職員の評価内容を収集し、会議で再評価と課題を話し合い、本人、家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。日々の記録では実施状況をチェックし、変化は「気づきシート」で個別に記載し、状態を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には実施した内容のみではなくご本人の表情を、会話の内容等、出来るだけ細かく残すように努めています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のその時々状況に応じて適切なサービスが受けられるよう柔軟に対応出来る体制作りを心掛けている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週1回地区センターでのふれあいサロンへの参加、また、日頃から行事等でも地域の方との交流を持てるように努めています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診の他、状況に応じた臨時往診、24時間連絡が取れる体制を整えています。	協力医療機関の法人ネットワークの中で訪問医を中心に内科以外の対応も可能になっている。かかりつけ医の訪問診療もある。安定した定期受診には家族が対応している。受診内容は個別に記録し経過を共有している。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回勤務しており入居者様の状態等も日々共有出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者状況票を病院に提出しホームでの状況を報告している。緊急時の搬送先についても往診先と連携を図っており事前に医師の診察やレントゲン検査等も実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居者様の状況に応じて看取りについての意向確認等は適時行っている。また、状態の変化に応じて介護計画の見直しも実施している。	重度化対応指針のほか、看取り指針の文章に看取り介護を行う場合の条件を分かりやすく明記し、家族の同意を得ている。終末期には指針を再確認し看取りを実施している。看取りに関する勉強会や振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回のホーム内研修の他、今後起こりうるであろう事態についても事前に話し合いや研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し火災や災害に備え訓練している。	消防署の立ち会いで日中を想定した避難訓練を実施している。今年度中に夜間想定訓練には地域住民の参加を呼びかける方向でいる。昨年の地震後に備蓄品の補充、危険箇所の確認やケア場面の対応を職員間で話し合っている。	町内会と連携し次回の避難訓練には地域住民の参加を得て行われることを期待したい。また職員の救急救命訓練の受講を計画的に進めることも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の状態や人柄、人格を尊重し常に関わり方や言葉掛けには留意している。	接遇や介護における基本姿勢について内部研修を実施し、個々に応じた言葉かけや対応を行っている。記録類は事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを感じ取れるような話しかけを常に行い話の中から今の思いややってみよう事等をスタッフが気づき、支援出来るような体制をとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアに力を入れ、その人らしく生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者様の希望やご家族様の想いをくみ取りその人らしい身だしなみやお洒落を支援させていただいています。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニューの話をしたり。口腔体操を実施。また、準備や片付けについても出来る可能性がある部分についてはお手伝いいただけるように環境を整えている。	本部の献立を基に、利用者の嗜好に合わせて味付けを変更することもある。利用者と一緒にスイートポテトやおはぎを作ったり、和食レストランなどに出かけている。寿司などの出前を取ることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂れない方への個別対応は往診先に相談しています。水分はゼリーや好みの物を提供して支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に応じて歯間ブラシを使用したり、歯茎のマッサージの支援をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	不必要なおむつの使用は減らしていく方向で考え、定時のトイレの声掛けや排泄の兆候を見逃さないようにしています。	全員の排泄を記録して、座位が可能であれば昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。利用者の状況に応じて、失禁を減らせるように筋力低下を抑える運動を取り入れながら自立に向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を用いて排便状況を把握し状況に応じて適時下剤の調整を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日にちの間隔が空かないように注意しながら入浴していただけるように努めています。	午前中を中心に、一人週2~3回入浴できるように支援している。浴槽のお湯を毎回交換して本人の好きな入浴剤にしたり、希望に応じて同性介助で対応して入浴が楽しめるように配慮している。身体状況に応じて、シャワー浴で対応することもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況や、その時々状況に応じて日中でもベッドでの休息時間を設ける等の対応wしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診先や薬局と連携し、疑問に感じた事等はすぐに確認、相談しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びを持って生活出来るように一人一人に合わせて工夫しながら支援しています。			

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様にご協力を依頼する場面もありますが、週1回の地区センターへ地域交流の為に外出をしたり、買い物や散歩にも出掛けています。	普段は、車椅子利用者の方も一緒に近隣を散歩したり公園に出かけている。花壇の花を見たり、プランターの野菜を収穫することもある。外出行事で円山動物園に出かけたり、滝野方面で紅葉を楽しんでいる。中庭や駐車場でお茶を飲んだり、バーベキューをしながら外気に触れることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際にご本人様の預り金から支払いをしていただいたり、ご家族様の了承のもと少額であれば所持していただく等状況に合わせて支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じて電話の使用や手紙の対応をしております。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除を徹底して行い、居心地の良い空間作りに努めています。また、季節を感じていただけるようにその季節に合った層々職を行っています。	居間や食堂は明るく開放感のある造りで、窓際のソファや廊下のベンチでゆっくり寛げるような環境作りをしている。壁には、フェルト地で手作りした日めくりカレンダーやクリスマスリース、干支のちぎり絵など、利用者と一緒に制作した作品や行事の写真をユニットごとに工夫して飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合うご入居者様同士が過ごせるように椅子の配置にも気を配り、各居室でもお話しが出来るように支援しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人が慣れ親しんだ物を持参していただき、居心地良く生活が出来るように支援しています。	居室には、引き出し付きのクローゼットが備え付けられている。好きな縫いぐるみやクッション、座布団などを持ち込んだり、写真や自分の作品を飾り落着いて過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人に合わせ、残存機能を活かせるように、出来る事は暖かく見守りを行い支援しています。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502801		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌川沿(2F)		
所在地	札幌市南区川沿4条3丁目5-37		
自己評価作成日	令和1年11月15日	評価結果市町村受理日	令和1年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内の清掃や環境整備には特に力を入れており、ご入居者様が心地良く過ごしていただけるように努めている。ご本人、ご家族様の意見を反映出来るように日頃から全員でコミュニケーションには力を入れています。
また、職員個々のスキルアップが出来るように研修や最新の情報の共有を行っている。
地域との交流では週1回のふれあいサロンへの参加を継続している他、児童館の子ども達との交流行事や、地域の行事へも参加出来る体制を整えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502801-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼にて理念を唱和する事で共有し実行している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいサロンへの参加やイベント、行事等に積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症に関する情報を発信している。また、行事にお誘いし、参加していただく事で認知症への理解の場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況の報告やいただいた情報や意見アドバイスを活かして実践に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告を通じて情報共有を行っている。また、保護下の方が来訪された際にも情報共有を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修や話し合いを実施しながら日々のケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の実施、また、ホーム全体で防止に努め注意、報告し合える環境作りを行っている。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2F管理者においては社会福祉士の取得や講習への参加にて学んでいる。また、事業所としても必要に応じて活用出来るように支援を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時、改定時には十分な説明を行い疑問点が無いか伺っている。不安な点があれば解消・ご納得いただけるように努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とのカンファレンスの際にご意見、ご要望を伺い運営推進会議等で外部へもお伝え出来る機会を設けている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や会議等で意見を確認している。異なった意見等がある場合にもしっかりと話し合いや理由の確認を行い反映に努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻度は多くは無いが現場の視察やホーム長を通して勤務状況を伝えていきます。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修も可能な範囲で参加する機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内にて合同研修、行事等の機会を設けて交流の機会を設けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごしていただけるよう、初期の段階で利用者様との時間を特にゆっくり持ち情報収集が出来るようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には利用者様の状況報告とご家族様の意見を聞かせていただき情報交換を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族様の希望を確認し対応出来るように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご自身で出来るは手伝っていただく等、互いに協力して過ごしていただけるように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報共有を行いご家族様より提案を頂いたり、逆に協力していただいたりと利用者様の為の関係作りを大切にしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へ外出を行ったり電話等で連絡が出来るように努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人きりにならず、他者様と良い雰囲気でご過ごせるように努めている。また、一人一人が過ごしやすい環境作りに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談等に対応出来るように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発言だけではなく、行動等全体を通して状態等を確認出来るように想いや以降の理解に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴の記録を確認しケアに活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中だけではなく夜間の過ごし方等も考慮して現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の様子をご家族様、全スタッフで共有し、その方にとって最も良いケアが出来るよう意見を出し合い実行しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした発言や仕草なども記録として残しより良い介護計画と実践に繋がるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	過去の実績だけにとらわれず、より良いケアが出来るよう新しい技術や知識を習得出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいサロンへの参加等で地域と関わる機会を設けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受ける事が出来るようにご本人の状態を正しく伝え、医療機関との連携を密に取るように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回勤務しており、勤務日以外でも緊急時は電話にて相談をしています。また、状況に応じて往診先の看護師にも電話や往診時に相談しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はお見舞いや病院との連絡にて早期退院への支援を行っています。また、往診先とも適時相談を行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様から相談があった際や段階に応じて看取りについての相談は何度も行いご本人様、ご家族様共に悔いが残らないよう、納得がいくように支援をしています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施し知識を得るとともに、マニュアルを整備し事故や急変の備えている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練があり、開催や災害時に備えています。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の気持ちを忘れないように常に意識しながら声掛けや対応をしていくように心掛けています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を伺ったりしながら自己表現が出来る環境作りを心掛けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを意識し出来る限り一人一人の希望に沿いその人らしい日常が送れるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と相談しながら、希望に合った身だしなみ、お洒落が出来るように支援させていただいています。			

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の嗜好に合わせて調味料等を変更する等、苦手な物でも食べていただけるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフ同士の情報共有や水分チェック表を活用し、声掛けや介助にて支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	原則毎食後に全員が口腔ケアを実施し、拒否がある場合にはうがい等に変更しながら対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンの把握や排泄表を確認しながら適時声掛けや介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整以外に日中のレクリエーション等で体を動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるように入浴剤を使用したり、会話を楽しめるように努めている。また、同性介助等個人の希望に合わせて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった休息時間を必要に応じて確保出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ間でしっかりと情報共有が行われ日々の変化を把握する事が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書やレクリエーション、作品作り等個々に合った支援が出来ている。		

愛の家グループホーム札幌川沿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外への散歩や他階への散歩で気分転換を図っている。また、本人の希望で遠方へ出掛けたい場合はご家族様に相談し希望に添えるように支援している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、許可、理解が得られるようであれば所持していただいている。また、外出時にはご本人の清算の支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の希望に応じて電話や手紙の対応を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは清潔を保ち、ご入居者様の状態に応じてカーテンの開閉、照明の調整を行っています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置やご本人の居室、ソファ等を利用している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の馴染みの家具や使い慣れた物を持ってきていただけるように依頼している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの出来る事、難しい事を把握しその人に合った支援を行っています。			

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム札幌川沿

作成日：令和 1年 12月 18日

市町村受理日：令和 1年 12月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用開始時に収集したご入居者様の情報(趣味、習慣、嗜好)が定期的に更新されていない。	定期的な更新により全スタッフが共有し、日頃のケアに活かしていきたい。	ご入居者様の趣味、嗜好、習慣を当事業所でケアプラン作成時に活用しているICFシートに記載する事とし、変化等も含めてケアプランの作成時期に合わせて定期的に更新していく。	6ヶ月
2	35	避難訓練に地域住民の参加協力が得られていない事。 新入職の方等、救命救急講習の未受講者がいる事。	地域との関係作りに努め、災害時の協力が得られるようにしていきたい。 救命救急講習については計画的に受講出来るようにし早期に受講が終えられるようにしていく。	地域行事への参加等により関係性の構築を行い、避難訓練等へ参加していただけるように積極的に働き掛け、お声掛けを行っていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。